

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 12 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500182		
法人名	医療法人社団和恒会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ふたばホーム		
所在地	呉市広白石四丁目1番11号 (電話) 0823-76 - 3315		
自己評価作成日	平成24年11月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500182-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年12月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

管理者と職員何でも相談できる雰囲気の中入居者によりそった介護支援に日々励んでいます。また特に力を入れている点といたしましては、広いスペースで、ゆっくり過ごしてもらっています。季節の食材を取り入れ、温かくて、美味しい食事作りに力を入れています。料理、洗濯、掃除等の作業を利用者の皆さんと一緒にしています。出来る事は参加をしてもらうことを原則にサービス提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

▶高齢者複合施設（7階建て）の3階にある事業所は朝やけから落陽まで四季の彩る山並みや街並みが一望できる。同ビルの法人関連施設及び併設事業所との連携協力により利用者の日常的交流や相互の行事参加など馴染みの関係が築かれている。▶職員全員で作成したホーム理念「ゆったりとその人らしく過ごして貰う」を実践し、毎朝必ず利用者一人ひとりの顔を見て笑顔で声掛けを行っている。又、人生観・価値観・習慣など個人の生き方を尊重し寄り添ったケアに取組み、毎月の全員会議で理念を振り返り浸透を図っている。▶医療面は母体の医療機関と24時間の医療連携を活かした協力体制が組まれており、本人・家族の安心と信頼につながっている。訪問当日、利用者の生き生きされた穏やかな生活ぶりが伺えた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念とは別に職員で話し合っ事業所独自の理念を作り、取り組んでいる。	事業所の理念を年に1回全職員で見直しており、それをホームの随所に掲示して浸透を図っている。ミーティングの中で、理念を日々の実践につなげているかを振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流は出来ていないが、地域のボランティアを受け入れたり、近隣の方への挨拶は欠かさないようにしている。	職員は、地元の地域センターで年に1～2回開催される「認知症家族の会」の講演会で、受付係りとして協力している。時には、同ビル上階にある高齢者専用住宅の入居者が訪れて、ホームの入居者と一緒に体操やお茶を楽しむ事もある。	入居者は地域で共に暮らす一員であるとの認識の下、まずは自治会に加入する事を検討して頂きたい。また、地域の老人会や女性会、子供会をはじめ幼稚園や保育所、小・中学校等との交流などを通して地域との接点を持つことが望ましい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進委員会に於いて認知症についての資料を配ったり勉強会を行っている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の現状や問題点を報告し、一緒に考えていただき、意見交換、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議を近隣にある法人のグループホームと共同で開催している。会議への利用者家族の参加が少ないため、家族が出席しやすい曜日を検討している。また、市の担当者にも働きかけて、次の会議には参加してもらえる予定である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議委員会への参加依頼、また、会議の報告を市、地域包括支援センターに行っている。	運営推進会議の報告書を市や地域包括支援センターに送付して、ホームの状況を伝えている。また、同センターとは運営推進会議で、情報交換等を行い連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	徘徊の激しい方がいるため、玄関の施錠のみしている。	職員は、年に1回の研修を通して身体拘束について理解しており、日常生活場面での身体拘束についても、その都度ミーティングの中で確認している。なお、玄関は、今のところ契約時に家族の同意をもらい、やむを得ず施錠している。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	虐待はあってはならないことで、些細なことでも見逃さないようにしている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	職員全員が完全に理解しているとは言えないが、成年後見制度については研修も取り入れて勉強している。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時に契約書、重要事項説明書、通常規程を参照しながら説明し、同意、納得していただけるよう努めている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	利用者の意見を傾聴し、不満等を運営に反映している。意見箱も設置している。	面会時や運営推進会議を利用して家族の意見を聞くようにしている。出された意見や要望は前向きに受け止めて、出来る限りそれに応えるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員全員が揃うミーティングの他、ノートを使い、意見交換をしている。</p>	<p>管理者は、月1回の全体ミーティングで職員から意見を聞くようにしている。また、日頃から職員が意見を出しやすい環境を整え、出された意見を実践する機会も積極的に与えている。職員の意見を取り入れ、同ビル1階にあるデイサービスとの交流が始まっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>定期的に面接を行い、働きやすい環境作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内外の研修、講習会への参加を呼びかけ、実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同じ法人内ではあるが、ふたばの家の管理者、職員と交流し、意見交換をしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>体験入居をしてもらい、様子観察し、本人の要望に傾聴し、対応するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>相談時、面会時に家族から表出される問題点等に対応するよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>複合施設なので当施設だけでなく、多方面にわたり利用出来るものを相談させてもらい、他を紹介することもある。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者に料理の作り方や風習を教えてもらうなど、ゆっくりと同じ時間を共に暮らす関係づくり、和める雰囲気作りに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>細かい点についても家族と相談し、了解を得ながら支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者の希望時に電話をかけたたり、手紙を出したりすることを手伝っている。面会も自由にできる設定にし、多くの方に来て頂いている。</p>	<p>家族の協力を得て、外出や一時帰宅がなされている。中には、毎月墓参に出かける人もいる。訪問美容師がホームの開設当初より4年継続して訪れており、新しいなじみの関係も築けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の席順入浴日等の調整で和やかな雰囲気作りが出来るよう、気配りし、孤立しないよう声かけしながら、利用者同士の親しい関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された後も入院先の病院を訪ねたり、家族に近況を聞いたりしている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	心地よい暮らしができるようゆっくり一人ひとりの希望に合わせるよう努めている。	職員は、入居者に寄り添って生活しながら新しい発見や個々の潜在能力を見出すように努めている。丁寧に要望を汲み取る中で、和食が好きだと思われていた人が、実は「フライドチキンが食べたかった。」と分かり思いが叶った例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴を把握するよう努めている。利用者いろいろな場面で聴くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の体調の変化や現状の把握は職員間の申し送り等により把握し、交代後も継続してケア出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	利用者一人ひとりの状態にあった計画を作成するよう努めている。	計画書は、入居者一人ひとりの担当者が作った原案を基に全職員で検討して作成している。計画は6か月に1回見直しているが、状況に応じてその都度見直しており、その時々状態を反映した計画となるように心がけている。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	介護記録を日勤と夜勤で記入し、職員間で情報を共有しながら実践、介護計画の見直しをしている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	利用者や家族の要望に対しては、出来るだけ柔軟に対応するよう努めている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	民生委員、自治会長、ボランティア、消防等の協力を得ている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	協力病院の担当医の適切な医療が受けられるようになっている。	協力病院の主治医による月に1回の定期受診を始め、協力病院から看護師長が毎週木曜日に体調管理に訪れる等適切な医療支援がなされている。また、協力病院との間で24時間の協力体制も整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	訪問看護師とは日常的に連絡を取り合っており、利用者の健康管理を行っている。協力病院の看護師にも相談を受けてもらっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院との情報交換、相談等を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時重度化や終末期の対応については、同意書で説明し、状態に応じ話し合いをするよう努めている。地域の関係者との共有はまだない。	現在のところ対象の入居者はいないが、終末期の対応について、今後を見据えた体制作りを検討しているところである。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	マニュアルを作成し、利用者の状態に応じて対応できるようにしている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署の協力を得て訓練を行っている。	年に2回、消防署立会いの下、入居者も参加して訓練を実施している。法人と地域の自治会との間で防災協定を締結している。	消防署立会いの訓練時に、地域にも参加を呼びかけることを手始めに、災害に備えての地域あげでの体制作りを目指して頂きたい。また、万が一に備えて、入居者一人ひとりの状況に応じたマニュアル作成が望まれる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
えお					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けの内容等プライバシーを損なわないよう、気をつけている。トイレ誘導時も他者にわからないよう行っている。	法人が開催する年1回の接遇マナー研修に参加している。プライバシーに留意しながら、一人ひとりに合った声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを密にとり、本人が希望を表わすことができるよう、そして希望が出来る限り優先されるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりを尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望で美容院に行く方もあるが、訪問美容のサービスの利用が増えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの好みを聞き、利用者と職員と一緒に準備して食事し、片付けをしている。	入居者の好みを聞き、献立に反映させるようにしている。また、個々の力を活かして、調理や準備、片付け等を一緒に行っている。外食を取り入れたり、家族と一緒に調理をしたりして、食事に変化を持たせる事を今後の課題としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>献立，食事量をチェックし，水分補給に関しても，頻繁に声かけをしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後の口腔ケアは声かけ，見守りのもとで行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄記録をとり，パターンや習慣を活かして排泄できるようトイレ誘導などしている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを基にトイレに誘導している。現在，おむつ使用の人が3人いるが，その内の1人は便意があるため，おむつ外しに結びつくようにトイレ誘導を実施している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄管理表に記入し，下剤の調節，飲食物の工夫や体操を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一応入浴日は決めているが希望やその日の体調等に合わせ，柔軟に対応している。</p>	<p>個々の希望に応じた入浴支援を実施しており，この時期は，ゆず湯で季節を感じながら入浴を楽しんでもらっている。また，入浴の嫌いな人には，さりげなく脱衣場にあるトイレに誘導する事で入浴に繋げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりの生活習慣やその時々状況にあわせ、室内の温度等、環境に配慮し、安眠、休息ができるよう支援している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	職員は一人ひとりの薬を把握し、確認して服用してもらっている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	利用者が役割を持ち、ホームの生活を楽しめるよう、支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	頻繁ではないが、利用者の状態に合わせてスーパーに買い物に行ったり、散歩したりしている。	同法人のデイサービスの協力の得て、車椅子対応車両を利用して介護度の高い人もドライブに出かけている。家族の要望を受けて、薬局まで一緒に薬をとりに行くこともある。	現在の職員体制では希望に添った外出支援は難しいと思うが、家族やボランティアの協力も得ながら、外出の実現に向けて模索して頂きたい。
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	現金の所持はしていないが、利用者が希望する買い物は家族の了解を得て、購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者の希望で電話したり、手紙を出したりすることを支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有空間は常に居心地の良い、利用者一人ひとりが自由にくつろげる場になっている。</p>	<p>共用スペースは広々と明るく、広いウッドデッキも備えた、居ながらにして景観が楽しめるくつろぎの場である。また、入居者の作品や花で季節感を出している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食卓を囲んだり、ソファで話をしたり、それぞれにゆっくり過ごされているようである。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>寝具、小物等は本人が以前から使われていたものを持ってこられている。殺風景にならないよう本人や家族と相談しながら、飾り物を置いたりしている。</p>	<p>入居者自作の書や絵画、趣味の観葉植物や写真等好みの物を持ち込み、くつろげる部屋となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者が混乱、失敗がないよう、部屋の表札を大きくしたり、トイレをわかりやすく表示したりしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ふたばホーム

作成日 平成 25年 1月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	外出の機会が少ない	それぞれに合った外出支援を行う	テラスでの外気浴、買物、散歩、ドライブ等企画し、実施していく	6ヶ月
2	2・14	地域との交流が少ない	地域とのつながり施設内の他施設との連携を図る	地域のボランティアを積極的に受け入れ、交流を図る。デイサービス小規模と連携し合同レクを行う	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。